

第5回 高千穂中学校移転新築検討委員会会議録 (要旨)

日時：令和6年2月22日(金) 午後3時00分 開会

場所：高千穂町役場 4階 大会議室

委員：出席者12名、欠席者3名

出席者	富高康雄委員、甲斐勝朗委員、喜田鉞子委員、佐藤さつき委員、佐藤幸男委員、安在直委員、甲斐烈委員、富高徹雄委員、安在優委員、佐藤公彦委員、佐藤有美委員
代理出席者	赤池英人委員(金丸智弘委員)
欠席者	板倉哲男委員、榎本英雄委員、甲斐英生委員

事務局：出席者6名 オブザーバー：出席者4名

事務局	教育委員会：戸敷教育長、林次長、佐藤課長補佐、山口学校教育係長、田尻学校教育係主任主事、建設課：飯干まちづくり推進係長
オブザーバー	有藤総務課長、興梠財政課長、戸高総合政策課長、甲斐建設課長

1. 開会 【進行：佐藤課長補佐(町長挨拶、教育長挨拶、委員長挨拶まで)】

2. 町長あいさつ

・4回にわたる高千穂中学校移転新築検討委員会では、様々な角度から、ご意見を賜り、昨年中に場所を選定いただき、高千穂温泉跡地と報告を受けている。

・子ども達のことを第一に考えて、ご意見をいただいたことに感謝を申し上げる。私も子ども達たちのことを一番に考え、高千穂中学校の移転新築をスピード感を持って進めていく考えだが、町民の一部から高千穂高校の敷地内に何とか移転ができないのかという意見を最近強くいただき、再検討する期間をいただかざるを得ないかと考えている。

・高千穂中学校の移転先については、高千穂高校の敷地内に連携型の中高一貫校として整備ができないかと私の前町長時代から話は出ていた。平成26年当時の県教育委員会との協議記録では、乗り越えるべき課題が多岐にわたりハードルも高いと。また、県からの大前提条件として、町内の中学校が一つにならないと難しいとあった。当時は、町内の中学校を一つにはできない状態であり、現場の先生方からは、同じ校舎内に県立と町立の学校が一緒に共存するところは非常に厳しいというような声があったのは事実。

・私と教育長、校長先生等と相談をして、一番良い形で中学校の環境を整えるということ、スピード感を持ってやっていくということを考えたとき、今の中学校の場所から高校ではなく、新たな場所に新設する方針を進めていくことを令和4年8月に県に報告し、県からもわかりましたという答えをいただいた。

・県からは「中高一貫校は、地域に五ヶ瀬中学校があるので二つはできない。連携型併設校の可能性としてはゼロではない。しかし、非常に大変だ。」ということだった。相当時間がかかると判断して、単独での建て替えに舵を切り、皆様方にスピード感を持って進めてくために、場所の選定の協議をいただいた。

・検討委員会の始まりは、「高千穂高校に併設はできるが一貫校はできないので、単独建て替えをする」ということで場所の選定をお願いしたが、「「県が高校に入ることは駄目だ」ということで単独建て替えをする」と誤った情報で理解している町民がいるので、町民へきちんと説明をする必要がある。

・当時と状況が変わり、上野中学校が来年3月で閉校し、高千穂中学校へ統合が決まった。少子化で、出生数は年間90名程度から今年間50名から60名になり、生徒数も減っている。将来を見たときに、高校の敷地内に中学校の校舎を建て直すということも実際には非常にハードルが高い問題ではあるが、可能性としてはゼロではない。

・中学校を高校にという声を全く無視して先に進むわけにもいかないとは私は判断をしている。半年ほど時間をかけて、高校と中学校の現場の先生方にも協議検討いただき、第1候補として前に進めていくと考えている。

・子ども達にとってどうしたら良い方向になるのかということをお今日はご意見いただけるとありがたい。

・これまで協議いただいたことに感謝する。

3. 教育長あいさつ

・忙しい中、毎回お集まり、協議いただいたことに感謝する。

・町長が先に説明した部分について、その他の項目で意見を伺いたい。答申を来週月曜日に予定をしてる。その内容について最終チェックをお願いする。

4. 委員長あいさつ

・年度末に向けて忙しい中、出席いただき感謝する。今まで皆さんから貴重な意見をいただき本日第5回で、最終的な答申をまとめることができた。この場を通じお礼を申し上げる。本日が最後の委員会になるが、意見等よろしく願います。

5. 協議事項 【進行：富高委員長】

(1) 高千穂中学校移転新築基本構想・基本計画（案）について〔資料1〕【説明：林次長】

・第4回委員会で意見や質問をいただき、また、欠席委員からも確認いただき、加筆修正を行った。

① 第1章 基本構想・基本計画策定の背景と目的〔資料1〕

・特に意見なく、修正なし。

〈質疑なし〉

② 第2章 基本構想〔資料1〕

・特に意見なく、修正なし。

〈質疑なし〉

③ 第3章 基本計画〔資料1〕

- ・諸室計画 校舎 その他に「備蓄倉庫」を追記。屋外では、夏場は高温となり、食料、飲料水の備蓄には向かないので、屋内にも備蓄倉庫を想定した方が良いという意見をいただき文言を追加した。
- ・諸室計画 屋外施設等 グラウンドに「(災害用トイレ)」を追記。避難所機能を果たすならば、災害用トイレ、例えば水が使えなくなった際でも使うことができる携帯トイレや組み立て型の簡易トイレなども考えられる。そのことも明記しておいた方が良いという意見をいただき、屋外トイレの後に(災害用トイレ)を追記した。
- ・設備計画の基本的な考え方に「多様な性のあり方を理解し、より多くの生徒が快適に学べる施設環境の整備を計画する」文章を追加。学校における支援として多様な性について正しく理解するとともに、多様性を尊重した施設環境の整備を検討することが必要とされているので、文章を追加した。
- ・防犯計画の基本的な考え方に「建物等の配置上、やむを得ず死角となる場所については、見守りカメラ(防犯カメラ)等の設置など、」の文言を追記。見守りカメラ(防犯カメラ)等の設置については、学校施設内においても設置を検討することは、必要だと思われるので文言を追記した。

≪質疑なし≫

④ 第4章 建設スケジュール〔資料1〕

- ・特に意見なく、修正なし。

≪質疑なし≫

⑤ 第5章 資料 高千穂中学校移転新築検討委員会設置要綱、委員名簿〔資料1〕

- ・特に意見なく、修正なし。

≪質疑なし≫

【会議発言内容】

発言者	内容
委員長	・原案どおり承認いただけるか。
委員	・はい。
委員長	・決定した基本構想・基本計画を町長に答申する。

(2) その他について

【移転先の検討について 説明：教育長】

・高千穂中の移転先について、県議が県教育長に2度確認に行かれた。内容は「高千穂中学校は高千穂高校に入ることは駄目なのか（できないのか）」。県議が確認された理由は、町が単独建て替えにした理由が「県が高千穂中学校の移転先として高校は受け入れられないとしたから」と理解されていたため。

・県は「一貫校は難しいが、来ることは構わない、ただし、併設になる」と当初から言われている。令和3年度から県と協議する中で、同じ地区に中等教育学校というのが既に存在しているのので、中高一貫校は難しく、高校敷地内に移転するならば併設。併設になるということは、それぞれ設置者が違う者が同じ敷地内に入ること。校長先生もそれぞれに、単純にそれだけのことではないが、それを受けて、当時の高校の校長先生とも協議をした。最終的には町長に、なかなか難しいので、やはり高校の敷地内に併設（連携型一貫校）としては厳しい部分があるので、単独ではどうかという話をした。財政的なこともあるが将来の子どものためにやると決めて、令和4年8月に私と町長が県教育委員会に伺い、町の方針として、単独建て替えを報告した。

・検討委員会を令和5年度予算化し会を発足、これまで会議を重ね、皆さんにご苦労いただき色々な意見をいただいて、答申までこぎつけた。

・答申は行すが、先々を考えると今回の意見に関し、丁寧に誠実に対応していかないと、将来に禍根を残すという思いがある。もし、皆さんが候補地の一つとして検討してはという考えならば、検討していきたいと思うが、最低でも半年、私はもう1年かかると思っている。校舎の移転・建築の話は先送りになる。

・私は、スピード感を持って、1日も早く危険であると言われている高千穂中から、新しい場所に移してあげたいという気持ち。皆さんに今からご意見をいただく中で、ここまで会議をし、移転先候補地を決定したのだから、前に進もうということであれば、今度の3月議会では、検討委員会の意見として答弁をする。

・串間市に県立福島高等学校と市立串間中学校の併設校がある。6校あった中学校を一気に一つにし、連携型に取り組んで10年。思ったほどの成果は出ていないと県は明言をしている。今年の福島高校普通科の倍率定員割れ、外に出ていく子供たちに歯止めがかかっていない。

・教頭先生が代理出席されているので現場の立場からの意見をいただきたい。丁寧に対処すること、1日も早く前に進めること、そういう観点から皆さんの意見をお聞かせいただきたい。

【会議発言内容】

発言者	内容
甲斐勝朗委員	・県議の意見は、県の考えと町が違うということか。それとも、県議が県教育長に話した内容と検討委員会の検討内容や進み方が違うということか。

発言者	内容
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・県議は議員に「県が高校への移転は受入れできないから町は単独建て替えをする」という情報を受けて、県に確認に行かれたとのこと。 ・県は前々から併設はできるとしていて、今回も「併設はできる」と答えられた。
佐藤さつき委員	<ul style="list-style-type: none"> ・独立性をもって町の検討委員会を行っている。いきなり県から意見を言われる。その意見を認めたら私達がやってきた検討委員会は何だったんだろう、自治体の独立性は、という気持ちが一番にある。 ・検討委員会が始まる前、1年かけて町議会では、高校との併設について、できないのか何度も質問し意見してきた。町からは、単独建て替えで進める回答をもらい、町議は理解していた。町が移転先（併設）を断ったことも知っていた。 ・一貫校はできない、併設は難しいと令和4年12月議会議事録にある。 ・私は高千穂高校の評議員をしているが、当時の校長から高校に移設してもほぼ全部にリフォームが必要。費用も安くはないという話も聞いている。 ・町が決めたことに対して、議会の意見は通らず、その後1年経ち、検討委員会も結論を出す頃になって、全くの部外者の方から言われて意見がここで通るとなると、地方自治のあり方さえも、何なんだろうと思ってしまう。 ・高千穂高校に関しては、県がすべき高校の定員割れの課題解決に向けなかなか手を差し伸べてくれない期間が何年もあった。結局、町が補助をして、T-L A B Oができた。町から何百万も支援をしている。それに比べると県は、入学生徒を集めることに力が入っていないような気がする。 ・今度、中学校を併設すれば、生徒が集まるから、そうした方が良くという一般の方々の意見もある。 ・県議からは、併設をするにあたり、技術室と給食室を作れば、あとの費用はかからないと先日、説明を受けた。費用が安く済むから良いだろうという意見に感じた。 ・教育は平等であるべき。田原小が一番古い校舎でずっと我慢している。高千穂中学校も今一番酷い現状。技術室には冷房も暖房もない。そのまま古いところ（高千穂高校）に行くのか。一部我慢している子ども達が永遠に我慢する期間がこれから先も伸びると思うと納得がいかない。

発言者	内容
佐藤さつき委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福島高校に研修に行ったが、併設がどれだけ大変か、中学校と高校が併設でやっていくまでに人事も含めて3年ぐらいかかったと聞いた。 ・議会で、町長に学校をどうするのか問うたときに、福祉も兼ねた福祉施設等も考えた上での複合的な施設も考えていくという答弁だった。今遅れている福祉や教育の面はどこで解消するのかという気持ちもある。 ・一つ聞きたいが、皆さんが併設校と一貫校を一緒と思っているので、すぐできると言われている。現場の方として、併設校の大変なところを伺えたらいいと思うが。
赤池英人委員	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生が1人、指示系統が一つしかないという点では、一貫校は非常に楽。例えば五ヶ瀬中等教育学校、都城泉ヶ丘高校と中学校などは、一貫校なので校長先生は、県立学校の校長先生しかおられない。 ・併設型は、一つの敷地内に、県立と町立の校長先生がおられるので、指示系統が二つできる。 ・併設型で一の学校の施設を借用するような形になってしまうと、どうしても中学校側は引け目を感じる。高校行事を優先せざるを得ないとか、また部活動があれば、中学生と高校生が同じグラウンドで例えばサッカーをする場合の体格差による怪我の心配。同じ体育館で同じ時間帯に部活動ができるのかとか。中学校側としては併設型は非常に厳しいものがあると思う。 ・同じ敷地内であっても完全に分離されて、中学校のグラウンド、体育館があれば、話は違うが。家庭科室や技術室を作れば、一緒にできるというのは安易ではと中学校側としては考える。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と高校では、1年間の流し方が違う。高校は、年度当初にインターハイがあり、球児は甲子園がある。9月1日が、就職解禁日、その頃には行事は持ってこない。大学センター試験は1月、2次試験が来週ある。中学校の中体連や文化祭など1年間のリズム感が違う。併設校は、全校集会も別々。施設の問題もあり、教育課程、年間のスケジュールの設定が非常に窮屈になる。借りている側がちょっと萎縮してしまう。令和4年8月に県へ報告に行ったときは、まだ上野中の閉校は決定していなかった。令和7年度からは、一町一中になる。唯一の中学校が高千穂中学校。将来を支える子ども達の大きな節目。新しい学び舎を設定し未来を託し、20年後、保護者世代になった子ども達が町が大変な財政の中、最優先事項として新校舎を建設してくれたと思いを持ってほしい。

発言者	内容
佐藤幸男委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画・基本構想の承認、ほっとしている。検討委員会が知らないところで県と県議で話があったことに驚いた。 ・一つの節目として、新しい校舎で中学校生活を送ってほしい。 ・学校なので学校としての施設が一番大事だが、今年初めの大震災や南海トラフ、いつ起こるかかわからない災害等に対応できる施設を作ってほしい。
喜田鉞子委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会で候補地が決まるまでは、他の方の話を聞いたりして、私の考えは、子ども達が町中を歩く姿を直接見ることができる町の中だった。 ・中学校の先生や教育長の話を聞き、やはりそこで子ども達を指導してくださる先生方が指導しやすい場所、子ども達も伸び伸びと元気よく育ってくれる場所が良いと考え、やっぱり一般の人、私も含めてだが、思うようにはいかない。検討委員会の結果で進めていくのが良いと思う。 ・委員からの意見がでたが、私もそう思う。これまで委員の皆さんに貴重な意見をいただきながら、候補地を選定し、基本構想・基本計画を策定し、答申する運びとなった。検討委員会の決定どおりに進めていただきたいと思う。
甲斐勝朗委員 事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地を候補地に決定するにあたり、20年後を考えたときに小学校の建て替えの時期が来る。小学校を建て替える時に、温泉跡地のそばに少し敷地もあるという話だった。小中学校で足並み揃えた教育ができると思い、検討委員会は承知をしたところ。検討委員会で決定したことを中心に進めたら良いと思う。 ・県内に次々と義務教育学校というカテゴリーの学校ができている。小中学校が一緒になった学校。今文科省は5年生から教科担任制にするように言っている。今の5年生は教科として、英語を習っている。実質、小学5年生の中学校化をスタートさせている。 ・小さくなってきた市町村は、小中学校を義務教育学校にして、学校の中で教科担任制を行っている。 ・いずれ高千穂町もそうなる。20年後の子どもの数を見れば想像がつく。小学校の閉校問題も出てくる。用地を検討する中で、いずれ高千穂小が今の全校生徒の半分になったときに、校舎をくっつけて、義務

発言者	内容
事務局 教育長	<p>教育学校になれるような計画も検討をと、次長にも指示している。それまで、空き地を避難所として使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野小中学校は、義務教育学校ではない。同じ敷地に小学校と中学校があるだけ。校長先生は、2人必要。設置者が同一なので、1人にカットし、本来いるべき小学校の校長先生の1という教員の数を、小学校の教員に当てている。養護教諭も今1人、これは小学校側の養護教諭なので、中学校の養護教諭の分も教諭としてカウントしている。これは設置者が同じだからできる。 ・町立学校だからできる併置型。しかし、中学校と高校は全く違う。単純に物理的に空いているから入れるという問題ではない。 ・町教育長としては、小中という一つのカテゴリーで、将来を見ていくべきと考える。
赤池英人委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高千穂高校は町の防災マップを見ると危険区域があるが、そこに移転する必要があるのかと思う。 ・子ども達の考えや意見を聞かないままで良いのか、高千穂の宝である子どもファーストで考える必要がある。 ・入学説明会で町内の小学校から高千穂中学校に子ども達に来て、やっぱり第一声は「汚い、古い」。「こんなところで3年間過ごすか」。コソコソ聞こえてくる。例えば高千穂小学校の綺麗な校舎で6年間過ごした子らが中学校に来ると、そのギャップは大きい。こういうことも含めて考えていただけるとありがたい。
富高徹雄委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見として、先ほど先生からの話があったが、子どもファーストで考えてもらいたい。半年間待ってくれとは、どういうことか、半年も必要だろうか、検討委員会の決定事項を県に報告すれば済むことではないのか、と思う。 ・最初は、高千穂高校と一緒になれば、今後、盛り上がるとも考えた。これからの子ども達のことを考えれば、新しく、また、教育長の話聞いて、小中一貫に早くしてほしいと思った。 ・押方小は子どもが少ない。先生方は一生懸命頑張ってくれている。 ・小さい学校の先生方は、一人で色々なことをしなくてはいけないので、負担が大きい。 ・子ども達が一緒に学ぶことができれば、コミュニケーション能力も高くなっていくと思う。それを見越して進んでほしい。

発言者	内容
富高徹雄委員	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会で承認されたことが、半年伸びる、この1年間は何だったのか、と思う。大人の事情があるのだろうが、子どものことを考えて行動してほしい。
甲斐烈委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校を高校に移設しても、高千穂高校がいつまであるのか、心配な面がある。高千穂中学校と併設になって、生徒数が増えるのか。高千穂高校には、日之影・五ヶ瀬からも入学するが、高千穂中との併設が逆に、私立高校進学に拍車をかけないか。運動や勉強など活発な子は、義務教育が終わらないのに、県内の私立高校に行く状況。 ・県議は、高千穂高校を残したいという思いだろうが、併設がそれに繋がるのか。 ・小中一貫という良い意見が出た。半年の検討期間を設けるなど言わず、早く進めるよう委員長からも話をしていただきたい。
佐藤公彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、高千穂中学校は危険区域にあるので、できる限り早く移転してほしい。中途半端に高校と併設しても子ども達のためにはならないのではと、先ほどからの意見を聞いて感じている。他の保護者の方からも、高千穂中学校いつできるのか、たまに聞かれる。そういったことも含めて早く移転新築できると良いと思う。
安在直委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年から話し合いが行われ、それから約6.7年、議論はもう尽くされたような印象。6.7年かかっても一向に前に進まなかった、実現しなかった。検証するにしてもそれほど時間をかけなくても良いと思う。新しい校舎の実現に進んでいくようお願いしたい。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討には、半年、もっと1年かかる。一つ一つ丁寧に教育課程、年間スケジュールを協議していけば。毎日の時間割で何時間目に体育館使うとか、そういったことも含めて、かなりチェックが必要。 ・修繕費等の費用負担割合の問題もある。 ・中学校は、地域の方から協力金をいただいている。PTAとしては、ありがたい。高校にはそれはないので、協力金を活用して事業する場合に反発の意見は出ないだろうか。 ・併設校として毎日一緒に過ごしていく上では非常にややこしい問題も出てくる。一つ一つ説明するとなれば、財政課、建設課、財務福利課との協議が出てくる。子ども達たちのためには、もう1日も早くこの話を進めていきたいが、それをしていたら進まない。

発言者	内容
委員長	・検討委員会としては、正式に答申を提出し、答申どおりに一日も早く取り組んでいただくようお願いする。
事務局 教育長	・検討委員会の決定として3月議会でも答弁していきたい。長期間にわたり、審議いただき改めてお礼を申し上げる。
甲斐勝朗委員	・ふれあい給食を温泉跡地の施設で作っている、建設工事等に関しては配慮をお願いする。

6. 閉会

・午後4時00分 閉会